

解答または解答例及び出題意図

年度	2025 年度
研究科	教育学研究科
専攻・コース等	教職専攻
試験科目	教育小論文
<p>I 期 試験問題①</p> <p>ウェルビーイング (Well-being) は、well(よい)と being(状態)からなる言葉です。子どもたち一人ひとりと社会全体が、現在から将来にわたって幸せで満ち足りた状態になるための教育が求められます。学習指導においてウェルビーイングを実現するためには、授業においてどのような活動が考えられますか。校種や教科等、単元を想定し、具体的な例を挙げながら述べなさい。</p> <p><出題意図></p> <p>OECD「ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030」において、教育の目的は「個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングの双方を実現すること」と定義されており、これは現在の日本の教育施策の基盤となる考え方である。本問は、ウェルビーイングの概念を正しく理解した上で、それを具体的な教科学習の中に落とし込み、授業を構想する実践的な能力を評価することを目的とする。</p> <p><採点の観点></p> <p>以下の点について、論理的かつ適切に記述されているかを総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OECD 等の提唱する概念を考慮し、当該教科における「個人と社会のウェルビーイング」について定義づけているか。 ・設定した学校種・学年等における各教科の目標・内容に即し、かつウェルビーイングの醸成に寄与する適切な学習内容が例示されているか。 ・提案された学習活動が、教育現場において具体的かつ実践可能な内容・方法となっているか。 <p>試験問題②</p> <p>文部科学省によると、2022 年度に全国で把握されたいじめの件数は 68 万件余り、自殺や不登校などの「重大事態」はこのうち 923 件と過去最多となりました。しかも、この 923 件の 4 割近くは「重大事態」になるまで学校がいじめを認知していなかったそうです。</p> <p>なぜ学校はいじめを認知できなかったのか、学校がいじめを認知できるようにするためにはどのような取組が必要か、あなたの考えを述べなさい。</p> <p><出題意図></p> <p>いじめや自殺、不登校などの児童生徒の生徒指導上の課題は、近年ますます深刻化し、その数も増加傾向にある。このような現状に対応しうる高度な専門性を育成するための</p>	

基礎となる知識・理解の程度を問うとともに、課題解決に向けた思考力・創造性を評価することを意図した出題である。

<採点の観点>

この出題に関しては、主として以下の3つの観点に基づき、評価を行う。

- ・いじめに対する道徳教育ならびに生徒指導上の知識をどの程度有しているか。どの程度正しく理解しているのか。
- ・いじめ問題に関する国や自治体による取組に関する知識をどの程度有しているか。どの程度正しく理解しているか。
- ・「なぜ学校はいじめを認知できなかったのか」「学校がいじめを認知できるようにするためにはどのような取組が必要か」という2つの問いに正対し、根拠を明確にしなが、自分の考えをまとめ、表現できているか。

.....

Ⅱ期 試験問題①

教科等横断的な学びとは、児童生徒が、ある教科等の学びを他の教科等の学びで活用したり関連づけたりすることで、学びが深まったり、活用できることを実感できたりするような学びとされます。どのような学びが考えられますか。校種や教科等、単元を想定し、具体的な例を挙げながら述べなさい。

<出題意図>

文部科学省では、STEAM 分野等が複雑に関係する現代社会において、新たな価値を創造し「社会の創り手」となる人材に必要な資質・能力の育成を目指し、各教科等の学びを実社会での課題解決に生かす「教科等横断的な学習」を推進している。本問は、教科等横断的な学びの概念を理解した上で、関連する単元や指導計画を適切に構想・立案する実践的な能力を評価することを目的とする。

<採点の観点>

以下の点について、論理的かつ適切に記述されているかを総合的に評価する。

- ・想定した教科において、中教審答申や学習指導要領の趣旨を踏まえ、教科等横断的な学びの意義・目的を明確に論じているか。
- ・例示した学習活動が、設定した校種・学年等における各教科の目標・内容に即しており、かつ教科横断的な視点から効果的で適切なものとなっているか。
- ・提案された学習計画が、教育現場において具体的かつ実践可能な内容・方法として構成されているか。

試験問題②

“生まれ育った場所や環境などにより、受けることのできる教育に生じる格差”と定義することのできる「教育格差」は、現代におけるもっとも重要な社会問題のひとつであると言われます。

この「教育格差」を生み出す要因は何かを明らかにした上で、学校・教員による「教育格差」への効果的な対策を理由とともに、できるだけ具体的に示しなさい。

<出題意図>

現代におけるもっとも重要な社会問題のひとつとされる「教育格差」は、校種や教科を問わず、全ての教員がこれを主体的に受け止め、取り組むべき課題の一つとしてとらえることができる。このような課題への理解や関心と解決に向けた取り組みを推し進めるための「総合的な人間力」を評価することを意図した出題である。

<採点の観点>

この出題に関しては、主として以下の4つの観点に基づき、評価を行う。

- ・「教育格差」についての知識をどの程度有しているか。また、どの程度の理解と関心があるか。
- ・「教育格差」に関する国や自治体による取組に関する知識をどの程度有しているか。どの程度正しく理解しているか。
- ・「学校・教員による『教育格差』への効果的な対策を理由とともに、できるだけ具体的に示しなさい」という問いにどこまで正対できているか。
- ・確かな根拠をもとに、自分の考えをまとめ、説得力のある提案ができているか。